

□議員名：濱本健吾

1 市議会議員選挙における過去最低の投票率と特に若年層への対策について

論点	今回の投票率46%という過去最低水準について、市としてどのように受け止めているか。
回答	選挙管理委員会としては、周知、啓発に努め、投票率の向上を期待していたが、結果として、前回4年前の市議会議員選挙の投票率を下回る結果となったことについては、非常に残念に感じており、危機感を持って受け止めている。

論点	若年層にしっかり投票所に足を運んでいただくことが重要だと考えるが、市としてはどのように考えているか。
回答	選挙管理委員会としても、若年層の投票率低下には強い危機感を持っており、投票率の回復と市民の政治参加の促進に向けて若年層に投票所へ足を運んでいただくことの重要性を認識している。

論点	近年、若者の間では情報を動画から取る傾向にあると言われており、本市でも山口市や下関市の取組を参考にしながら、選挙管理委員会の公式インスタグラムを開設する考えはないか。
回答	選挙管理委員会独自のインスタグラム等のSNSの開設は行っていない。実現可能性については、様々な観点からの調査研究が必要であり、今後研究を進めていく。

2 山陽小野田市立山口東京理科大学の厚狭キャンパスにおける医療系学部構想について

論点	山陽小野田市立山口東京理科大学 厚狭キャンパスの構想について、市が現時点で把握している内容を問う。
回答	現在、山陽小野田市立山口東京理科大学と市において、今後の方向性について検討を行う段階に入っている。

論点	各学科40名で定数120名と設定した理由を聞く。
----	--------------------------

回答	大学の運営、経営、それから地域のニーズ等を踏まえた上で定員を設定している。
----	---------------------------------------

論点	他の市立大学と比べて、本市は人口規模が小さく、学生規模が大きい。他の市立大学を持つ市町村の人口規模と総学生数を意識しながら、拡大を行う必要があるのではないか。
回答	大学に入ってくる学生にとって、どれだけ魅力のある大学にしているかということが大切な観点であると考えている。現在も工学部や薬学部において、70%近い学生が市外、県外からやってきている。

論点	公立化時839名だった総学生数を2,489名に増やすという計画について、公立化前は厳しい現状を考慮して拡大を行うべきではないか。
回答	理系の市立大学としての魅力度を高めていった結果、現在1,800人近い学生が集っていることは紛れもない事実である。今後も新キャンパスを設立するに当たって、この魅力度を高めることで定数を満たしたい。